洋雜記

柳田文庫
文庫11
A 1834
2

越後中蒲原郡臼井新田氏印

文庫11
A1834
2

柳田泉文庫

西洋雜記卷二

目録

聖人美瑟（モセス）の説
ギリーキス國の名畫の説
取火鏡を以て敵船を燒く説
天下の奇女子の説
入尓馬泥亞（ゼルマニア）國にて異獸を得る説
和蘭（ホルランド）國にて海中の女人を得る説
波尓杜尾尓（ポルトガル）國讖記の説
伊斯把你亞（イスパニア）國人呂宋（ルスン）國を奪ふ説

附テイリュス國女王カルタゴ城を築く説
西洋暦法の説
西洋天文の原始
西洋上世鬼神の説
西洋圖畫を譬諭を設くる説
亞細亞亞弗利加（アジア　アフリカ）の像の説
ギリフヒウン（ファーニス）の説
弗尼思鳥の説
誓没辣（キメラ）山の説
セ井ヒデ子ンの説

馬哈黙（マホメット）の説
印度（インド）國佛法の説
日月を神とする説

西洋雜記巻二

聖人美瑟の説

昔西洋中興の時を去ること一千五百年前今を去ること三千三百餘年前夏殷の世の間に當る唐土小加德亜國に大聖人あり美瑟という。聖德神靈にして諸國の人らな其教に化す後に阪八多國に到りて教を施す國人らな信從す國王の君を怪み惡みて兵を遣はして害せんとす衆人すなわち美瑟を保護して東に向ひて去る國王いよいよ怒りて大軍三十六萬を興して是を追ふ

西紅海(ラーデゼイ)より入る。此時海水忽ち開けて陸地となり、美瑟(モセス)等衆人を率て渡て去る。阨入多(エジプト)國王の軍卒も追ひて入て是を渡て、海の半ばに至りしに、天より忽ち狂風を起し、暴雨を降し、海水大に湧き揚りて、三十六萬の大軍、一時に溺死せり。是より美瑟(モセス)ハ亜剌比亞(アラビア)國に至りしに、天その德を感じ、甘露を雨らしてへずとなり。此他一生の間、奇異の事跡甚多しと云ふ。美瑟(モセス)が撰する所とする、典礼法制の書、および上古の歴代史記等、皆今の世に傳もりて、諸國の規模とす。美瑟(モセス)の墓を如德亞(ジデア)國の深山の洞(ホラ)中に在り。諸人恒に詣るに至りて、礼拜を行ふ。

桜に、ちまよふ甘露ハ、すなわち所謂(イハユル)甘露密なるものにして、西語「マンナ」また「ホーニフ。ダーウ」とふ。和蘭語「ホーニフ」ハ密なり。今多く亜剌比亞(アラビア)國、および亜弗利加(アフリカ)の地に產れ、又欧羅巴(エウロッパ)洲、拂郎察(フランス)國中の「ダウヒ子」(ちまき拂郎察國にて世ニその太の内子の祿食に供もるの地なり)「ワレアンソン」とふ地、毎年八月に至りて、「レエウウエリッキ」とふ樹に甘露ふる。然るに、その降るの始めハ、露なりと上に降りて最多し。

いへども忽ち凝り〳〵脂の如し。その味沙糖に異ならず。國人これを珍重すといふ。

「ギリーキス」國の名畫の説

昔「ギリーキス」國アレキサンデル大王の畫工セウキシスと云ふもの。きはめて圖畫に巧なり。つねに大王の命によりて蒲萄を畫く。その彩色形状宛然として真の如し。これを壁上に掛る時は、窓外の禽鳥これを見て、皆嘴を真の蒲萄なりとして、相聚まり〳〵毎にこれを啄まんとせしとなり。畫圖の巧妙に至りて、萬國すべて相ふ

取火鏡を以て敵船を燒く説

昔西齊里亜島「セイラキュサ」國王の天文師に亜尔幾墨得斯といふ者は資性霊慧にして事をなすに殊に其妙智人意の外に出づ。國王是を重んじて匠作大監の職を兼ねむ。ある時邏馬國と比産齊何國と兵を合せて「セイラキュサ」國を併せんとて、數百艘の大船を泛べて西齊里亜の海上に陳ぬ。其兵勢甚盛にして、島中の人皆震い恐る。此時亜尔幾墨得斯一個の大なる取火鏡を鑄て是を敵船の向ひ来る海岸の岩上に置きて、天日に照して敵船に むかふ。鏡光と日光と相照して光發して海上悉く火を成して

數百艘の兵船一時よりとぐく焼盡して一艘も留めず
となり。その亜尓幾墨得斯ハ天文測量の事より其志
きわめて深くして。その後臨終の時までも尚測量れ
圖を地より畫ゑながら。終りしとなり。此鏡を以て敵
船を焼くるをハ「シン子ベルデンハン。キリステレイキ
。ホルスト」とへる書より其圖説ありまた。ホイスと
いふ人所撰の學藝全書よりほぼ其事を記し。又亜尓
幾墨得斯が國王の命によりて。極めて大なる船を造
りしことを。萬國航海圖説より記す。然れども此説も
森島氏紅毛雜話の中より。其譯文を載し。故より是より贅

せば

天下の奇女といふ説

昔羅馬のコンスタンチニュム帝の世より當りて。百兒西亜
國主オデナチイ其勢ひ盛なり。其后セノオビア
猛勇絶倫にして。衆ミな畏服し。學才殊より秀でゝ
よく阨入多。西利亜。厄勒祭亜。羅甸等。諸國の文字言
語より通じ。恒より其夫王と共に兵を用ゐて。諸國を征伐し
陣に臨むごとに。奇計を以て敵に勝ずといふことなし。
遂に大業をなして。世ニ東方諸國に雄長たり。世に
是を称して。「ウランドルフロウー。ハン。カンツセ。ウェエレル

ド」といふ古れ天下の奇女といへる義なり

ヘル馬泥亜國にて異獸を得る説

「サルツ・ビュルグ」ハ、ヘル馬泥亜國の「ベイエルス」道に屬するの地にして、其國山岳多く、僧官の主あり、是を治む。西洋中興第一千五百三十一年（日本享保四年、唐土明の嘉靖十年辛卯に当る。）小獵人此地の深林に分いて、一箇の怕るべき形狀の異獸を得たり。全身毛なきに濃厚にして、その色淡黑四足を具して爪きわめて尖利なり。頭面ハ少々人に異ならず。一度吼るとき、其聲地に震ふ。獵人生るゝまゝ捕へ、僧官の府城に輸し、皆以て奇觀なりとす。

然れども絶へず飲食せば、其性情および食料得て量り知るべからず。凡三日にして斃るといふ。

和蘭國にて海中の女人を得る説

西洋中興一千四百零三年（日本應永十年、唐土明の永樂元年癸未に当る。）和蘭國「フリース・ランド」の人、その部内の「ヒュルメル・メエル」といへる海湾の水中に於て、一の異物を得たり。其身體形貌すべて女人に少し異なるとなし、則是を「ハールレム」（阿蘭陀國中都會の地）に送る。是に衣服を付ふ。是ハ則着ル。飲食をなたふ。是を食ふ。ならず。唖にしてものいはとあるべからざるのゝ。神像を見ればはさす敬を起し

俯伏し國王ものを憐みつつ奇たりとして豊に衣食を給し存活すること多年なり。ごとき人に似て人にあらず。其性情および海中に在るハ我のいぶるの所に在り。何をなすものなるや知るべからず。怪むべし。

按に明儒の譯譯する萬國圖說および坤輿外記に二百年前西洋喝蘭達把の海中にて一の女人を得るよりこれを記したるもの即是なり。西書にものをゼエメンセン（海人）と云ふ又ゼエフロウー（海女の義）と記せり。すべて按に洽聞記・譽神錄・續墨客揮犀等に海人の事を說き草木子に金の時に水中に人の形現ずることを論じて水にもまた人類あるべし。幽明相隔てて知るべからずといへる言あり。蓋人魚の類なり。人魚の事ハ六物新志に詳なり。故に是に贅せず。

波尔杜尼尔國讖記の說

西洋中興一千七百五十五年に日本寶暦五年唐土清の乾隆二十年乙亥に當る。波尔杜尼尔國「ヨーセフス」第一世の王一名「ヨーセフスユマニエル」と云此國「ヨハン子ス」第五世の王の太子なりの世に當りて其國都里西波亜城に大地震あり。城垣崩壞し都内の人家摧倒せるもの凡五萬餘家。城下の得若と云へる大河に浮めるる大船壹艘海水鳴動に隨て小山の樹に掛る。地震の響せるに入尔瑪尼亜拂郎

察等の地よりきたる。實に近世の奇變なり。初波尔杜尼尔國の始祖ヘンリキュスと云ふ。此國を開基して里西波亜の城を築く。時に賢者未来の事を前知する者ありていふ。此城造建より後、六百六十六の數を保つべし。其事ヨハンネスと云る人の紀錄に載せあり。その是を築きたる八中興第一千零八十九年の事なり。日本寛治三年。唐土宋の哲宗元祐四年己巳に何たる。たゞして此地震の時に至るまで凡六百六十六年なりといふ。嗚呼奇なるかな。

伊斯把你亞國人呂宋國を奪ふ說

附「テイリュス」國女王「カルタゴ」城を築く說

呂宋國ハ亞細亞洲南海。非利皮那諸島の一にして。その地最大なり。土氣暑熱にして。多く米穀諸菓胡椒肉桂沙糖黃金真珠等を産ず。西洋中興の千五百七十二年に日本の元亀三年。唐土明の隆慶六年壬申に當る。伊斯把你亞國の人併せて吉利を有ち都督を置て吉利を治め。僧官を署して教を布く。明世諸書にないて。伊斯把你亞人倉本ミな佛郎機に作るは誤なり。今是を改む。此國に通商して。其國兵弱くして。奪ひ取るべきを計りて。則黃金を其國王に貢して。牛皮の覆ふほどの地を得て是に居らんことを請ふ。王是を許す。伊斯把你亞の人則牛皮を細く長く裁して線となす。是を以て多の地を

廻繞して古より城郭を建て兵備を嚴重ます王古より
を如何ともすることあたず其後遂に兵をもつて國
都を圍み王を殺して其地に據るといふまた鄭居仲
が撰するところの鄭成功傳に和蘭の人臺灣の地に據る
の事を記し其牛皮を裁るの事また是に同し再
西史を按に昔「テイリュス」國の女王ギトといふもの甘
的亜島に併せ遂に「アフリカ」の地にいたり金寶を
其土酋に遺り因て牛皮の覆ふほどの地を乞ひ得て
牛皮を細く裁りて線となして多くの地を圍み要害
堅固なる都城を築きて「カルタゴ」と名け是を基本

となして次第に其邊の諸州を併せたりといふ古き西
洋開基第三千零八十年の事にして（唐土周の厲王十一年癸巳に當る）今
を距ること二千六百二十五年前なり蓋伊斯把你亜
もとより和蘭の人此女主の故智を用ゐるものなら
んか

西洋暦法の説

暦法に「ゾン子ヤール」「マーン子ヤール」の二種あり「ゾン子」は
日なり「ヤール」は年なり古は太陽の暦にして日の躔
度に因て年をなし一時を分つ如徳亞欧羅巴阨入多等
は暦法太陰なり「マーン」は月なり是太陰の暦にて

月の圓缺(ユンケツ)によりて年をなす。時を定む。唐土・天竺・亜剌比亜(ビア)等の法ハ太陽の暦なり。太古「ヘブレウス」の暦法ハ太陽の暦なりて。其正月を號して「ニサン」といふ。是今の西洋の三月と四月の間に當るといふ。羅馬(ローマ)國の始祖「ロムリュス」鴻業を開きて。王位に即き。制度を建て。正朔を改め。一年を分て十箇月となす。今の西洋の三月をもつて正月となす。其後ニュマ王の世に至りて。改めて今の如く十二箇月となる。然れども毎月の日數今とハ異なり。四月を二十九日とする類なり。すなはち其後ジュリウス。カーエサル帝(エウロツ)歐羅巴(パ)洲を一統をさめて。始て今のごとくの日數と定

めたり。今西洋の元旦ハ此方の冬至すぎて第十一二日に比するなり。故に「ヲイウエ。ヤアルス。ダック」といふ。すなはち新年の日といへる義なり。正月を「ヤニュアレイ」といふ。「ラテン」語なり以下同」日數凡三十一日なり。和蘭語一名「ロウー。マーント」といふ。此月二十三日ハ日輪廻りて寶籠(ホウイ)宮の初度に入る。二月を「ヘブリュアレイ」といふ。日數二十八日あり。和蘭語一名「スプロツクル。マーント」といふ。いはゆるヘハ此月二十九日あり。アウグストス帝の世なり。此月を二十八日となりて。「アウグストスの月を三十一日にあらためしジュリウス。カアエサル帝の例を用ふるとなり三月を「マールト」と云。日數三十日あり。和蘭語一名レ

ン(春)テ。マーント(月)」と云。

四月を「アップリル」といふ。日數三十日あり。和蘭語一名「ガラス(草)。マーンド(月)」といふ。「アップリル」ハ上古の世の神人の名よりて。古の神海泡(ムカ)より出る。此月「ギリーキス」國より現ずるよりて名くといふ。

五月を「マーイ」といふ。日數三十一日あり。和蘭語一名「ソルウイ(発生)。マーンド(月)」といふ。一説に「マーイ」ハ花の名なりて。此月より花ひらく開く故なりといふ。

六月を「ユウヲ井」といふ。日數三十日あり。和蘭語一名「ソ(復)ーメル。マーンド(月)」といふ。

七月をユーリイといふ。日數三十一日あり。和蘭語一名「ホヲ(草名)イ。マアント(月)」といふ。古ハ此月(エサル帝の世より改めて三十一日となせり。此月三十日なりしをジュリウス。カー)

八月を「アウグストス」をいふ。日數三十一日あり。和蘭語一名「オックスト。マーンド」といふ。此月二十三日ハ太陽廻りて室女宮に至る。此月古名「セキュステリス」といふ。是第六といへる義なりて。昔ロムリス王の世より今の三月を以て正月とせり。也。此月ハ第六月に當り。故なりといふ。アウグストスハ其後の王者の名なりて。此月を以て即位せりによりて。月名を改め名けられなりといふ。

九月を「セプテムベル」といふ。日數三十日なり。和蘭語一名

「ヘルフスト。マーンド」(秋月)といふ。「ラテン」語にて「セプテム」ハ七といへる義なり。古昔今世に至りて8高ロムリュスの時の舊称を改めさるるべし。以下十月十一月十二月皆是に同じうるべし

十月を「オクトヲベル」といふ。日數三十一日あり。「ラテン」語「オクトハ」ハ八なり。和蘭語一名「ウエ井(酒)ン。マーント(月)」といふ。

十一月を「ノオヘムベル」といふ。日數三十日なり。「ラテン」語「ノオヘム」ハ九なり。和蘭語一名「スラクト。マーンド」と云。

十二月を「デセムベル」といふ。日數三十一日あり。「ラテン」語「デセム」ハ十なり。和蘭語一名「ウ井(冬)ンテル。マーンド(月)」といふ。

カアール。ゴロオト帝の世。まゝ此月の別名をヘイリゲ。

マーント(月)」と號ハ是聖月といへる義なりて。むかし聖人某なるもの。此月誕生しゝる故なりといふ。

以上十二箇月三百六十五日六時なり。四年ホ一度二月を二十九日となりて。壹年三百六十六日となる。彼方にてハ一晝夜を二十四時に分ち。子の刻より午の刻まてを十二時となす。午の刻より子の刻まてを十二時となす。古の法ハ上古の世に阨(エジプト)八多國より傳へるものなりといふ。

阨(エジプト)八多國の曆法。まゝ太陽の曆なり。一年十二箇月三百六十五日にして。餘ある時刻分秒なり。毎月各三

十日にして。たゞ十二月のみ三十五日となす。
亜剌比亜國の暦法ハ。太陰の暦なり。一年十二箇月三百五十四日八時四十九抄なり。三十年に十一閏を置く。但し閏とハ此方の閏月まゝならず。閏日にして一年三百五十五日となるをいふなり。
都児格國又此暦法を用ゐるといふ。（梅は是夏暑冬寒に拘らず。して一年となれるものなるべし。）
亜剌比亜の十二箇月ハ。「ミエハルラム」正月「サハル」二月「ラヒア。プリオル」三月「ラヒア。ポステリオル」四月「ヨマダ。プリオル」五月「ヨマダ。ポステリオル」六月「ロヤアラ」七月「シカアバレ」八月「ラマダン」九月「シカワッル」十月「デュルカンダル」十一月

「チュルベッシア」十二月なり。然して毎年正三五七九十一の六箇月ハ各三十日にして。二四六八十十二の六箇月ハ各二十九日にして。合せて三百五十四日なり。時として十二月ハ一日を加へ。三十日となして。三百五十五日となるなり。
天竺にて八月の圓なる時を以て月首とするなり。支那の諸書に出づ。或誤りて天竺ハ朔望にして月首とするといふ者あり。笑ふべし。
真臘（今の柬埔寨）にて八支那の十月を以て歳首とし。閏歳にまゝかなるべし。閏を置く。但是閏九月なりて真臘

風土記ゐ見へらり。

西洋天文の原始

西洋天文星象の學ハ上古の世ゟ阨八多(エジプト)國ゟ於て始めて是を造作せり。ゆゑを彼方諸國天學の權輿(ケンヨ)とし、天竺の天文ゟ。蓋彼方ゟ傳へたることゝして十二宮のゝ不空三藏所譯の宿曜經ゟ云へり。但一二十八宿を日月ゟ配するゝハ決して天竺の説ゟハ違ざるべし。二十八宿の事ハ支那古聖の定もるところゝして天竺ゟて悉是ゟ同じうるが如き理なり。ゆゑに不空ゟ牽合附會せるなるべし。ゆゑによりて思ふゆ古来翻譯の佛書の中ゟハ附會の説定めて多きことゝ思ふ。

西洋上世鬼神の説

西洋諸國上古の世ゟ一て聖人多く興りて教をたつとゝ。昔時ハ種ニの鬼神を尊信するゆゑ奇異怪誕なるゆハ奇異なる譬喩の類きゝめく夥(オビタヾシ)きゆり。邏馬(ローマ)國ゟもいて上古の世ゟ「ユピイテル」歳星「子ブトニュス」「アホッロ」「マルス」熒惑軍神「メルキュリウス」辰星「ヒュルカニュス」の六の天神。ゆ「ユノ」「ミ子ルハ」「ヘニュス」太白「ヂアナ」「セレフ」「ベスタ」の六の天女を崇信し。

合称して「コンセンテス」といふ。此十二神を各月に配して、まづ黄道十二宮に配す。のち「ミネルハ」を白羊宮に配し、「ヘニュス」を金牛宮に配し、「アポッロ」を雙兒宮に配するの類なり。日月五星四元行等、こゝに其像あり。邏馬國にてもつて上古の世に圓形の大殿を建て、熒惑太白の二神を奉じ、其他種々の鬼神を附祀す。其巧妙美麗世に名ありて、此殿を名けて「パントン」といふ。此殿今尚存す。然れども「コンスタンチニュム」の大帝の世より、前奉ずるところの諸神を除くべし。此他諸國にも此等の諸神を奉じ、然れども「阨入多」祭るところの像、それ種類最多しといふ。「阨入多國人

の説によれば、太古の世に「ケエフ」といふ尊神あり。其口中より一卵を吐く。全世界此卵より生ずるなり。世界開基の始なり。故に其像巨大にして、手に卵を捧ぐるの形をなす。またいはく「セイヘレ」といふ女神あり。天を父とし、地を母として生まれ、鎮座の正妃となり、諸神をはじめ、あらゆる生むところなり。故に號して神母といふ。また天下の諸獸をはじめ、此神の聲音氣息によりて生まるるところなり。其像頭に寶冠を戴き、手に一の鎖鑰を把り、百花を衣となし、諸獸恒にその傍に圍繞してあるひは時として寶車に乗り、四の

獅子車を駕に又「ギリーキス」國中「ペロポ子ンシュス」の地よりおいて一の歳星の祠を建つ其莊嚴美麗なること紙筆よ竭すべからずみな黄金諸寶石を以て修飾しうつ其巧妙精密世よ絶えたり正中よ歳星真形の極めて大なるものを安置し傍よ諸神を附祀に是を農神と称に「バッキュス」といふ天下七奇の其一なり又鎮星の女を「セレス」といふの世よ耕農の業を人よ授けるゆゑ如此よ称すそれ「バッキュス」といふものハ歳星の子にして其状肥る小児の如し世の釀酒の事を護る故よ称し

酒神とに又鎮星の子よ「シロン」といふ者あり其像半身人にして半身ハ馬なり志を以て高山よ登りまはるゆゑ好んで馬よ騎す弓矢を挾み高山よ登りまゝ衆の藥草を試みて其性功を區別して上世ハ名醫なりと其他天象輿地の學を極めのち歿するよ及じて其靈魂天よ昇り十二宮中の人馬宮となるゆゑなり又歳星の女を「ヂアナ」といふ世よ是を獵神と称に此神神通廣大にして一體三名あり天よ在りては「マーン」月輪を云と現じ世界よ在りてハ「ヂアナ」と称し地獄よ在りてハ「ヘカッテ」と號に相傳ふ此

神夜ニ天より降りて其尊信する者多くして福を賜
ふと故に世に多くの人を祭祀ひ然して其祠廟小亞
細亞(ミノル)の厄弗俗(エフス)國に在る所の者最世に名あり(南懷仁が説に此
を供月祠廟と云ふ其の天に在りて八月と現ずるなるべし)其造建凡二百餘年にして
始めて成る中に一百二十七株の美玉の大柱あり其
美麗巧妙人の心思の及ぶところあらず古礼今に去
ること二千六百餘年前に亞瑪作(アマソン)榻の人建てしものなり
て其祠天下七奇の其一なり(此祠廟の事第一その巻に既出ぢれ)その
他此類の諸神きも多く多く或いは羅馬(ローマ)國
第二世ニュマホム。ヒリウス王の代に「ヂアナ」天より

ぶりて一の清泉を羅馬(ローマ)の地に湧出(ワキ)せしむ孕婦(ヨウ)ありて
浴するもの皆安産(ハラム)ひ王その霊應を尊びて祠廟を彼
國に建ること事なりと。また或いは上世に「テイホン」と
いふる一巨人なり其婦を「エキトナ」といふ半身は女に
半身は蛇なり其生むところの第一子を「セルベ
リュス」といふ。おのれ三頭三喉(ガイ)の犬にして地獄の門戸を
守る悪人の霊魂地獄に墜(カ)つる者あるときは則是を噛(カ)む
の他「ヘイダラ」「レルナ」「キメラ」「子ノアレ」等の諸子皆異形な
りといふ然して中世に至りて聖人まさに出
生して法教日に明らかなり又コンスタンチニュム カーレル

ゴロート等の諸聖帝、政令を定めて妖妄の浮言を禁制し、諸國の邪魔の廟及び種々の淫祠を悉破滅して、より、邪霊魑魅諸妖盡絶ゆ。今より至て邪妖の人を迷さすといふことなしといふ。則知る邪妖ハ人よりて興るといふこと、誠に萬代不易の金言なることを。

西洋圖畫に譬諭を設くる説

西洋の畫圖のきはめて縝密なる、所寫の精妙を致むることハ、世に知るところなり。然して其畫中譬諭をなすものの甚多し。たとへバ書籍の首に、其撰者の像を畫き、傍に「エンゲル」羽翼ある天人を圖し、或笛を吹く形ちハ「エンゲル」の遠く飛び、笛聲の遥に聞ちもるがごとく、其撰者の聲價遠聞すべきの意を取るなり。又マーリンといふ人ハ、拂郎察國の人にて、拂郎察語を和蘭語に飜合集したる、釋猂書を著せり。其後和蘭の人ハルマ氏云者是を訂正し、また二國の釋猂書を著せり。其首の圖に、上面にハルマの像を畫き、下に數箇の人マーリンを踏つぶす。その傍に臭氣を避けて鼻を掩ふの人あり。たまたまその踏潰すもれハマーリンの書をすて、新に訂正するの意を示し、臭氣を避くるものハ、マーリンの書の紛雜しよろしからざるをいふ。

を示すに意なり。其他此の如き類頗多し。まゝ彼邦に昔よりして「ヒッポ。センタウクス」といへる異形の像あるを古記。其半身人にして。半身馬なり是上古の世に始めて「デッサリア」國（ギリーキスに屬する地）を開きたる人あり。此人もゝはじめて其地に至りし時に馬に騎まりその時「デッサリア」國の地にはいまだ馬といふものなきゆゑに土人古記を見て大に驚き怪みて人馬合せて一體なりと思へり。其後此人それ土人を教化し大に德を施して人らなる古記に懷く。こゝをもりて此人の始めて其地にいたりる時の像を画き且其德の人に勝まる

を表して異形に飾を加へる者なりといふ。すべて西洋にて古人の肖像多く傳もりて西史の首に二三千年以來の名ある人物の肖像數百を圖をり其中に羅馬（ローマ）のコンスタンチン第二世の帝の像あり。小傳の下に記して曰。此帝の肖像を画たるもの今傳もりぶ。然るに此帝の時所造の錢貨尚（ナホ）世に存し。錢文ふ帝の面あるがゆゑに。此に摸寫（モヤ）にとれり。則知る其他の肖像もこれ的實なる者にして。あゝ私意を以て画きたるものもあらざるなり。

亞細亞（アジア）亞弗利加（アフリカ）の像の說

西洋の畫譬諭を以て亜細亜亜弗利加の二洲を圖し
て皆人の形ちなす其亜細亜ハ婦人なして身に繡衣を
衣て諸種の花菓を荷ひ右手ハ丁子胡椒香桂等
の枝を把り左手に香爐を捧げ「ウ井イロオク」香脂
の名を薫じ駱駝その後に隨ふ又亜弗利加なる婦
人なして黑色裸體縮毛なる毛身に滿ち鼻ハ象に同
し頭に鳥羽を飾ち右邊に獅子なり左邊に大蛇
および蝮蛇なり此地方の産物を以て譬像
を設くる者なりといふ

「ギリツヒウン」の說

「ギリツヒウン」ハ極めて奇異なる生類なり其體に四足
を具へ然して前半身ハ全く鷲にして翅なり耳
貸て長し前足もまた鷲の足なり後半身ハ全く獅
子にして尾長く後足また獅子の脚なり是北荒の
地に産するとなりて其鷲猛なるべうら
ひとしふ然るに世に絶へて見ざる者なり或ハいふ
上古の世阨入多國の淫祠中ハ此像を設くけり寓
言の〻

弗尼思鳥の說

西利牙國の邊に一種の奇鳥あり弗尼思と名くそれ

其壽六百六十歲なるべバ則その壽の終らんとを予を知る。因て「ウヰイロオク」香桂等諸の香木の枝を以て巣を作りて其上に居る。天氣熱するの日を待ち太陽の火を取てもつて自焚死し、それ骨肉遺塊すりて一箇の蟲を生じ、此蟲すゝ化ゝ弗尼思鳥となるといふ。

右のごとき寓言すりて上古の世に「プウニシア」國（プリニア）西利亞三大國の一子孫傳統して文華盛なるの意をもつて諭をなすものあるといふ。

誓没辣山の説

那多里亞國利細亞（ナトリア リーシア）の地に大山あり。誓没辣（キメラ）と号ふ。此山に一種の異獸あり。頭ハ獅子にして身ハ野羊のごとく尾ハ龍に同じく口中より火烟を吐くさまを名けて「ヘツレロホン」といふ。世に其圖を傳ふ然るときハ又寓言にして此大山其頂上恒に火烟を噴きそゝ邊獅子多く半腹ハ平衍にして豐草繁衍し野羊蕃息し下邊ハ沼澤多くして龍蛇住し人なむ〻〻しかり是を怕る〻往く者なかりしを「ヘツレロホン」いふ異人始めて衆を帥ひて此山を開きて是に居住せしゆゑなりといふ。此事ハまゝ利瑪竇が著せし坤輿全圖に見えたり。

「セ井レデ子シ」の説

「セ井レデ子シ」を海中に生ずる一種の怪物にして、その上體ハ婦人のごとく、下體ハ魚ありよく魔魅の妖術をなす。若其聲を發して、歌を唱ふが如くなる時ハ、風波大きに興ずる。海舟を覆没す。此物意太里亜國の屬島西齊里亜の海邊に居るといへり。然れども唯此説をのせし傳へにて、世に其像を画きて、崇飾を加ふる者ありといへども、たゞ的實に此者なるべきやいぶかしまず。昔時の寓言ならん。

馬哈默の説

回二、西域大食國種也。陳隋間入中國。明丘濬曰、國在玉門関外萬里。其俗祀天不為像。航海至廣州者始于其地。創寺。禮拜。金元以後。蔓延中國。所至輒相親守。其所謂教門者。尤篤。今在在有之。職方外記。回回中國之西北。出嘉峪関云。初宗馬哈默之教。諸

馬哈默と元明諸書に所謂默德那國王謨罕驀德と云者にして、其建つるところの教ハすなはち所謂回教なりと天方教といふものなり。ヒプ子ルス人名の書に載するところを按ずるに馬哈默ハ亜剌比亜國の人にして、其父ハ佛教の徒、母ハ「ヨーデン」の女なり。いにしへの世に如德亜の國都「エリユサレム」城の廢せし時に、其國人四方に散じ、その子孫今「アジア」「エウロッパ」「アフリカ」三大洲の諸國中に駱くにして、皆其上古祖先よりの教を奉じて、あくまで改めざるを總称して「ヨーデン」と云。西洋中興の後第五百七十年、日本欽明天皇三十一年、唐土陳の宣帝大建二年庚寅にあたる。五月五日に亜剌比亜の默加の地に生る。馬哈默父の業を嗣ぐ。大富の賈人なり。其後「ヤコビチヤ」教の徒バレラス人名「子ストリー」教の僧セルジウス僧名および

國多同云ニ。梅回ニ國名タリ。今何レノ地方タルコトヲ辨セズ。或亜剌比亜ヲ指スカ。地馬哈默教ヲ修スレバナリ。ヨノ教法ヲセホメト称スルモ回ニ教トモイヘバナリ。又回ニノ音譯何トイフ詞ナルカ。國名ナリトモ聞エズ。教法ノ名ナルベシ。回ニトモ云フヘキトコロニ。天方ト書キカヘアルナリ

「ヨーデン」の人等は隨ひ〳〵道を學び。諸教を混集(コンシフ)して加ふるに。奇異怪誕の事を以て〳〵。遂に馬哈默(マホメット)教門を立て〳〵。亜剌比亜(アラビア)諸國に教を施し。「アルコラン」又「コラン」といへる經典三十部を著せり。明人の説に。其經有三十藏といへるもの。おもきものべし。その後六百一十六年日本推古天皇二十八年唐土唐の高祖武德三年庚辰にあたる。の七月十六日に。默加(メッカ)より遷りて。默德那(メデナ)において歿し。壽六十二因て其地に葬る。明人の説に隨の開皇年中に。其國人始めて其教を傳へ〳〵中國に入るといへ。ちうきども西書の説に拠れば。馬哈默(マホメット)を陳隋より唐の世の初までの人なるべ。隋の開皇中に其教支那に入るといふと。詳らかに上の説に「子ストリア」「ヤコビチヤ」「ヨーデン」等の教を混じ〳〵馬哈默教門を建つと。梅に西書にも〳〵西洋中興五百年の比に「子ストリア」の教をカルデア」印度支那等の諸國に傳ふとあり。然るに隋の開皇中に支那に入るの教は。すなわち「子ストリア」教なるべし。其墓西紅海を去ること

三日程默加(メッカ)國王の都城を去ること四日程にて。遠近諸國の人多く是に至り〳〵拜礼す。又此地に美麗なる大寺觀あり。あるいは明人のいへる天方の礼拜寺なるべし。ちうきどを名け〳〵「ミスクエ」といふ。ちうきど聖といへる義なりとぞ。其規制方形にして。黑石を以て造成し。門および平所にも。皆白玉石を用ゐ。其外面長廊を造て。窓および柱らなる玉石なるも。内にも夥く燈籠を掛く。皆甚大にして其高八九尺。或丈餘に〳〵る。外面に八六の大塔あり。其内に「ミナレーデン」といへる塔最高しといふ。然〳〵其「アルコラン」の經文に載するところの奇説怪誕甚多し。計るに勝べからず。その天堂地獄の事を説くや。曰。天堂に至るものは未來永

劫(ガウ)歡樂を窮極し、少くも檢束(ケンソク)なく、美麗(ビレイ)の少女(シヨジヨ)毎日かはるがはるよきうてを枕席を薦め、種々の飲食美味芳潔なるを供し、浴するに乳汁香花の湯をもつてし、居るに珊瑚明珠美玉百寶を以て造建せる宮殿樓閣を以てす。其地獄に墮する者は、毎日烹割(ハウカツ)の千辛萬苦を受け、死し〳〵すれば死し、終世盡るなしといふ。その他事も皆是に類れおほきをもつて西洋の人馬哈默(マホメト)を「ハルセプロヘット」と稱れおほきを假聖といへる義なり。

印度(インド)國佛法の說

和蘭(ホルランド)の人ウツウテル。スユウテンスが著れ東洋行程記に曰、印度の諸國其人多く「ヘイデヲン」の教を奉ぶ。そもそも奉ずるところの神像種々一ならず。（按ずるに「ヘイデヲン」とは佛法のごとくならん。種々異形の像を祀る教の總名なり。）其中に最尊むところのものは「イソラ」「ヒストニュム」「フラマ」「ラム」等の者なり。さきに皆天中天なるものにして、稱して「オフブルユット」（和蘭語にて尊神といふ義なり）といふ。其「イソラ」は一名「マハデ。ウー」といひ、其像を見るに皆甚巨大にして、形容甚奇なり。その頭面は人と異なることなしといへども、三の眼あり、其一は額上の中央にあり。十六臂なり、種々の物を把る。頸に玫瑰(マイクワイ)および諸種の花を掛け、飾となし、虎皮を衣し

象皮を外套(タウ)となし、相傳ふ昔「イソラ」天より降り、
て高山の頂に降る。此時玫瑰諸花芳香(フカウ)馥(フク)し、諸鳥
妙音を發し、水土清淨にして、奇相を現ず。「イソラ」則
國人に教を施し、人心安樂得道せしめてのち、まもなく天
に昇り去るといふ。「イソラ」に配するの女神を「パシメ
スセンイ」といふ。其像姿容温柔なり。配合して四子を
生む。これを称して新神といふ。第一子を「クエナバチ」
といふ。「ソイケルゼエ」(沙糖海といふ義なり)に居すなり。
に主宰り。其像體は人に異なるなしといへども、その頭及
び牙喙(ガイ)は象に似て、然して四の臂(ヒヂ)あり。第二子

を「シリ・パニュマル」といふ。それ形容奇異にして、頗猴(スコブル ミカウ)
に類し、此像則意蘭(セイロン)國にて殊に多く是を奉ず。其他
の印度諸洲、および支那日本等の國に至るまでこれ
像を奉じて、ことごとくこれに祠廟を設く。第三子を「シュペ
ンニア」といふ。其像六面十二臂なり。第四は女神なり。
「パタラガリ」といふ。其像姿容美麗なれども、八面
十六臂にして、耳に懸くるに寶玉を以てし、はなはだ二の大
なる象牙をもつて飾りなす。此像王國「カランガノル」の
地にもっぱら殊に多く是を奉ず。その「ヒストニュム」はまた
ひとり一箇の尊神なり。此神神通廣大にして、變化

方なり。故に其變形種々一なるべし。或半身獅子にして半身人なるもあり。或一頭四臂なるもあり。或美麗なる童子の形をなすもあり。此他變形尚甚多し。また「ソ井ケル。ゼエ」海沙糖に居る二人の美女。それ傍に侍し此神をつとめ世界の人を保護するを主とす。（梵天）また観世音の類なり。その「ブラマ」もまた尊神なり。其像人に異ならずして。四の頭あり。或いまた是天地を創造するの神なりとして。其令に從ふ所の大小の諸神多しと云。それラムといふものハ又一名ラモと云。（桜に曰く釈迦なり。ヒフ子ルスの書に）印度にてハラムといひ。東京にてハミアカといひ。日本にてハシヤツカといふ。是いまへの聖人に

して初め主尊の位に居りしが。其妃シツタといふを辞して。道を學び。（桜に曰く佛書に釈迦いまだ出家をなすして浄飯王の太子なりしときの妃の名を耶輸陀羅女といふ。シツタもまた須陀羅女といふ。悉達太子といふその音まぢかし。釈迦の始の名なり。遂に一種の教門を興して。東方諸國に教を施す。其神通廣大なりといふ。これらの外の「キスナ」「インデルシヤト」「ラツシ」「カムダカ」等の諸神。又「ドルウペツチ」「デルシインデ」等の諸神女なり。（桜に曰く ヒフ子ルスの書に南印度馬辣拔尔の諸國佛法を奉ぜ。其奉ずるところの佛像甚多し。）また百種のごとなりと記せり。凡其教中いまだ「ヒストニユム」一隻（キ）の大鷹の上に座し。世界ハ其鷹の牙邊にありて。（桜に曰く此大鷹ハ佛書にいふ金翅鳥の類ならん。）又或曰。全世

累ハ古れ一箇の大牛の頭上なり。故ゑ其牛たま〳〵頭を動揺すれば則地震なり。按ゑ三才圖會ゑ佛書の説を引く。閻浮提ハ一の大鰲の背上なり。此鰲常ゑ身の痒きを苦ミ〳〵其鱗甲を動ゝ。すれば則地震ありと。いふなり。其鱗甲ハ相似たり。すれ〳〵或いハ〳〵。世界ハ古ゑ今を去ること十餘萬年前ゑ一の卵の中より生ずるものなりと。又いふ〳〵人死〳〵その霊魂生き〳〵世ゑ在り〳〵時ゑ。其平生善良なる者ハ。樂界ゑ赴く。樂界ゑハ「メルク。ゼエ」海乳「ソイケル。ゼエ」種種千數なり。それ悪き者ハ地獄ゑ墮落す。地獄ゑハ刺棘の深井なり。鉄喙の鴉なり。猙獰して人を咬み食ふの犬なり。悔刺する蚊蚋飛蟲あり。かゝるの

死の者すべて種〻千數あり。又いふ〳〵人類獸畜。その形狀ハ皆異なり。いへども。霊魂ハすなわち異なるもなし。故ゑ身死すれいへども。其生来の善悪ありて。業畫をバ再世上ゑ生ず〳〵。或人となり。或ハ獸となるもかくのごとくなる奇異なる説。なほ甚多し。

日月を神とする説

和蘭語ゑ日月星辰等を謂て「ナテユル。チイナアル。ゴウ」といふ。古ゑ真の生神となり。西洋の画ゑ日月を圖するゑ。其中ゑ人面の形をなすハ古ゑ其生神といふを表すの意なりと。然〳〵韃靼の部中曠

漠の地に一國あり「ハンダイ」といふ其人つねに日を以て神とし毎事是を祈る又哆羅絨等の類の色赤きものを圓く裁して空に懸け日の像なりと称して是を拜祀すといふ又地理の書を按ずるに北亜墨利加洲より花地の野人まづ北海新増白蝿の小人等は日月を神として是を祈乞に又亜弗利加洲「ニギリシア」の内に一國あり寡蝿太といふ其人他の鬼神を知らず惟火を以て神となして是を祈禱に同洲「カフプルス」國も風俗きはめて卑くして鳥獸に同じ故にうつく鬼神法教等を知らず然るに一種の晴雨を祈

る法あり名けて「ホンメ」といふ穴ごとに其人屋居を知らず多くは洞穴に居る或僅に木枝をあみ建て巣となして是に棲むが故に晴を喜び雨を愁ふ晴れて天晴る時は相聚りて歡喜踊躍して其の霊感あらんとは若陰雨すれば惱怒きはめて甚く罵詈して已まざるなり

西洋雑記巻二終

010190533889

西洋雜記 卷二

48 13111